

みらいワークス、上場初日は買い気配のまま

スタートアップ

2017/12/19 19:00 [有料会員限定]

🔖 保存 📧 共有 🖨 印刷 🗨 共有 📧 COME 🐦 ツイット 📺 その他

コンサルタントやシステムエンジニアなど、高度な専門知識を持つ人と企業の仲立ち役となる、みらいワークスが19日、東京証券取引所マザーズに株式を新規上場（IPO）した。経営戦略立案やシステム構築などの業務を企業から請け負い、フリーランスの専門家に業務を担当させる。自由な働き方を支援する企業として注目されて買い注文が殺到、公開価格（1840円）の2.3倍の4235円まで買い気配値を切り上げた。

「個人で戦いたい人が活躍できる仕組みをつくりたかった」。みらいワークスの岡本祥治社長は起業の目的をこう説明する。現在、41歳の岡本社長は外資系の大手コンサルティング会社などに勤務した後、2007年にフリーのコンサルタントとして独立した。だが、翌年にリーマン・ショックが起き、案件を受注するのが難しくなった。



🔍 画像の拡大

みらいワークスの岡本社長

1人では営業にそれほど時間は割けない。案件があっても、規模や内容によっては自分1人だけで請け負えないこともある。フリーの専門家を束ねて、彼らを支援するようなビジネスがあれば――。こんな思いが募り、12年にみらいワークスを設立した。

事業案件（プロジェクト）があるときだけ、専門家の知恵や経験を利用したいと考える企業は多い。自社で抱えると人件費を払い続けなければならないからだ。みらいワークスはそうした企業から、経営計画立案やシステム構築などの業務を請け負う。

業務を実行するのは、みらいワーク스에登録しているフリーの専門家たち。登録している約6000人から最適なチームをつくり、与えられた課題を解決する。みらいワークスは登録者の個別面談を通じて能力や評価をデータベースにしており、企業の要望に応じたチームづくりを可能にしている。

40代以下の人たちの間では、転職と同じ感覚で独立や起業をとらえている人が増えている。一方、必要なときだけ専門家の知恵を借りたいと考える企業も多い。フリーの専門家の活躍の場はさらに広がる公算は大きく、18年9月期の税引き利益は前期比15%増の9800万円を見込む。

会社設立当初は営業先に「フリーランスなんて信用できないと言われた」（岡本社長）。だが、政府が働き方改革の一環で副業・兼業の解禁を検討すると報じられると風向きは変わった。

16年には金融とITを融合したフィンテック業界に特化したマッチングサービスも始めており、専門性の高い人材とフィンテック分野のスタートアップを橋渡ししている。岡本社長は「力試ししようとする人を支えるインフラにしたい」と自社の将来像を表現する。